いる所もあります。

町内には古来から正月十五日の夜、門松や古い神棚、御幣などを一緒に燃やし悪魔、疫病の入ることを禁じた火祭りがありました。

“どんど焼き・歳の神・さぎっちょ”などといわれましたが、もともとは“道祖神祭り”なのです。この風習は、商工会青年部が音頭をとって毎年継続されています。

螺良岡には明治の世まで、太い漆の木の枝にお椀のふたを糸で下げた「つんぼ様」と呼ばれる道祖神が祀られていました。

関山（上小松）の水神宮境内と、入宗口に“丸石道祖神”を祀った石祠がそのかみの面影を現在に残しています。

石や巨木に神秘的な力を感じ、その力が耳だれや、病気を治してくれると信じられてきたのです。

## 22 疱瘡神

疱瘡は天然痘・痘瘡と同じです。ビールスによって伝染し、この病気特有の小さな吹き出ものが皮膚や粘膜に出ます。運よく病気が治っても、顔や全身には、あばたが生涯残ってしまうという死亡率の高い、大変恐ろしい病気です。

栃沢の南へ外れた山際に明和八年（一七七一）・八重松の白山神社境内に、現在も新年には注連縄で飾られる“石祠疱瘡神”が造立されています。

「日本石仏事典」に、疱瘡神は、青ざめて痩せた白髪の老人。奇怪な姿をした老婆。幣束を手にして、波間にただよう円座に座ったみすぼらしい老人…などと記されています。

当時の人達は、恐ろしい疱瘡などの疫病は“神”によって持ち込まれ、拡まるものと信じて、疫病神（疱瘡神）を祀って、疱瘡に罹らないように祈ったのでしょう。

## 23 観世音

観音のいらかみやりつ花の雲

芭蕉

満開の桜のなかに、観音堂の屋根瓦の見える風景です。春風駘蕩とした、春の景色の長閑さがよく表れています。

庶民の願望は多種多様ですから、一切の人々をよく観察するために、三十三様に姿を変化し現すと「観音経」にいわれています。観音の「三十三応現身」（変化身）と呼び、仏教では、三の数を重視することから、三十三カ所となったわけです。

大門に大悲観世音・嘉永三年（一八五〇）・横川山に横